

## 平成 26 年 第 3 回 定例会

### ○一般質問

質問年月日	質問者	件 名	要 旨
平成 26 年 9 月 24 日 (9/10 受付)	荻原 文明 (一括質問)	1. 天理市地域活性化ビジョン について	<p>1. 街づくり協議会実施事業（2014 年度予算案の概要より）に 22,211 千円の予算化をしている。</p> <p>目的は「街をより魅力的かつ住みやすい街にし、天理を訪れる又は定住する人を増やす」こと。手法は「市民や地権者をはじめとした関係者が知恵を出し合い協力する」「従来の関係者だけでなく、外部から専門家を招き助言や提案を受ける」です。さらに、「10 年先を見据えた街づくりのため」としています。</p> <p>現在、街づくり協議会は 3 か所設置されています。天理駅前広場等空間デザイン作成等業務委託料として有限会社 nendo と 19,459,440 円の契約をされており他の地域の今後の予算化の見通しはどうか。</p> <p>2. 現在の天理駅前広場が天理を寂れた印象、閑散とした印象を与え、全体として街の活力を失わせる原因であると言われていたが、「総事業費は概ね 10 億円を超えない範囲」で「ハコモノ」をつくる理由にはならないのではないか。</p> <p>3. 街づくりは、市民生活の「衣・食・住」「医療福祉教育」を充実することが基本である。そうしてこそ魅力のある街として発信できるのではないか。</p> <p>4. 「街づくり」に市民の関心が高まりつつあることはこの間の取り組みの成果だと思うが、多様な意見を反映させること、施策は柔軟に対応することが必要ではないか。</p> <p>5. 特別な建築物をつくることで、今後の維持管理に多額の費用がいるのではないか。</p> <p>6. 特別な建築物をつくることで、駅前広場活用の自由度が制限され、バリアフリーの観点からも後退するのではないか。</p> <p>7. 地域活性化は推進する必要があるが、「総事業費は概ね 10 億円を超えない範囲」で使われる巨額の特別な建築物は、投資効果はあるのか疑問である。</p>

質問年月日	質問者	件名	要旨
平成26年 9月24日 (9/11 受付)	寺井正則 (一問一答)	1. がん対策について 2. 消費者教育(金銭教育)の充実について 3. 高齢者ボランティアポイント制度について	1-1. 本市におけるがん対策(検診やその受診状況)は。 1-2. がん検診の受診率を向上させるための取り組みは。 1-3. 胃がん対策にピロリ菌のリスク検診(ABC検診)を積極的に推進する考えは。 2-1. 本市における消費者トラブルの相談や金融に関する相談の状況は。 2-2. 消費者教育推進地域協議会の設置や地方消費者行政活性化基金活用についての所見は。 2-3. 本市の小中学校における消費者教育(金銭教育)の状況は。 3-1. 高齢者のボランティアポイント制度の推進について
平成26年 9月24日 (9/11 受付)	飯田和男 (一問一答)	1. 観光による北山の辺の道 2. 櫛本公民館の移転について	1. 歴史・文化を古道にそって地域の活性化を図ることについて 2. 耐震診断の結果及び工程予定・補正予算の取り組みについて
平成26年 9月24日 (9/11 受付)	市本貴志 (一問一答)	1. 本市の市政運営について	1. 第5次総合計画(後期基本計画の進捗状況)について 2. 最終処分場の今後のあり方について 3. 債権管理条例制定に向けた進捗状況について 4. 次世代育成について 5. スポーツ・観光を活かした街づくりについて
平成26年 9月24日 (9/11 受付)	山本治夫 (一問一答)	1. 駅前地区活性化プロジェクトについて 2. 福住グリーンテクノの土地活用について 3. 旧消防署の今後の方向性について	1. プロジェクトの財源、町の人々の意見 2. 天理市ソーラーパークのスケジュールの予定 3. 旧消防署の土地の今後のスケジュール